

「情報の「可触化」を基盤とする多覚的情報コミュニケーション手段の研究開発」

1. 研究目的

今日、流通している多様なデジタル情報の認識は利用者の視覚能力に頼ることが多いが、人間の視覚認知能力には限界がある。そのため、人間の有する他の感覚能力も活用した、より人間中心の視点に立ったコミュニケーション手段の研究開発を目的とする。

2. 研究開発の概要

- a) 汎用触力覚装置を用いた多様なアプリケーションの可触化とその仕組みの研究
- b) 可搬式触知型ディスプレイとその制御ソフトウェアの研究開発
- c) 可触化モデルとその再現アルゴリズムの設計・開発
- d) 可触化技術の具体的アプリケーションへの応用検討

3. 期待される研究成果及びその社会的意義

認知力・情報処理能力の向上

- ① GIS等、膨大なグラフィカルデータ上の詳細な変化状況を瞬時に読み取る



生活利便性の向上

- ② 電子マップ等の2次元的情報を立体的に把握する



情報の可触化

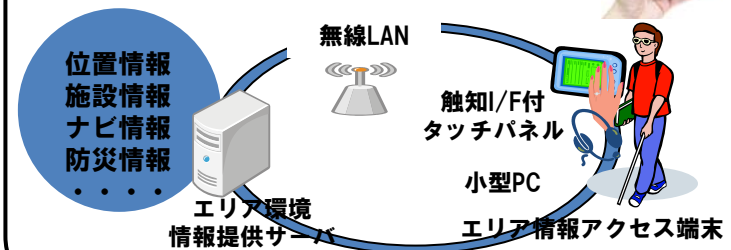
- ③ 通常は触知が困難な文化財、遺跡物等を触知可能な形で再現・保存する



バーチャル美術館・博物館

地域教育、文化、教養面の充実

- ④ 高齢者や障害者の視覚系ハンディキャップを触知行為で補完、代行、強化する



情報弱者の支援